

受験校を決める覚悟

今月末には各中学とも2学期の期末テストが実施されます。その後の面談で中3はいよいよ私立高校の受験校（推薦・一般）が最終決定します。今年の入試から内申点が絶対評価になるため、私立高校でも例年より基準を上げているところが目立っているようです。

愛知県の場合、公立と私立の比率はほぼ2：1となるように募集定員を決めていますので、いくら内申点が「絶対」評価になろうとも、各高校の入学者は「相対」的に決まっていきます。全員が公立高校とか、全員が当初の希望通りの高校とかいうわけにはいかないのが現実です。

ただ、今年のように制度が変わる年は、いわゆる「番狂わせ」が起きやすくなります。その結果生徒本人としては不本意な高校に進まなければならないケースがでてしまいます。これは悲劇です。

何が悲劇かというと、「本命（希望）の高校に落ちた」からではなく、「自分の合格した（通っている）高校を愛していない」からなのです。この思いは高校時代ずっと引きずる可能性があります、その先の進路にも影響を及ぼしかねないのです。

公立高校の「複合選抜」は公立を2校受験できるため、従来からも第1志望校をチャレンジ校、第2志望校を滑り止め校としてきた受験生も少なくはありません。心配なのは、内申点絶対評価のために、滑り止めのはずの第2志望校の基準が上昇して不合格になり、本人が予想していなかった私立高校に行くことになるケースがでてしまうことです。

例年ならば公立希望の受験者には、「どうせ私立には行くつもりはあれせんのでしょうか？ だったら合格できるレベルを1校か2校受けて、全部合格通知もらって気分良く公立受ければいいがぁ」と言うのですが、今年は少し勝手が違います。来月決める私立受験校は、自分が通うことになるかもしれないことを心の片隅に覚悟しておく必要があります。特に上位高校を受験する受験生。慎重にかつ真剣に受験校を決めてください。

最後に繰り返しになりますが、結果として通うことになった高校が第2志望の高校であれ、私立高校であれ、そのことに悲観してはいけません。どの高校の先生でも、入学した生徒を一所懸命伸ばそうと指導して下さるはずです。あくまで私見ですが、その面では私立の先生のほうが熱心なのではないかと思えます。ともかく自分から腐ってはい誰にも救うことはできません。「合格した高校が自分の母校」それを運命と受け入れ、その中で前進する者にのみ道は開かれるものなのです。

2学期中間テスト結果

	高森台中	英語	数学	国語	社会	理科	合計
中	塾生	94.8	85.5	81.3	77.8	81.5	421
3	学年	79.2	64.3	71.8	65.3	62.0	345
中	塾生	91.9	93.6	90.4	83.9	83.9	444
2	学年	58.5	62.1	68.5	54.1	56.6	303
中	塾生	95.3	92.5	82.5	88.0	74.0	432
1	学年	71.3	63.0	57.6	50.0	42.6	285